

倉吉市教育振興基本計画（素案）と提言、審議会意見等対照表 220830

	倉吉市教育振興基本計画（素案）	明日の倉吉の教育を考える委員会提言	H22 倉吉市の教育と重点施策 平成22年度学校教育の方針と重点施策 倉吉教育の基本 より	学校教育審議会意見等（審①＝第1回審議会での意見、後審①＝第1回審議会後の意見、教委⑥＝6月定例教育委員会、教委⑦＝7月定例教育委員会）
策定にあたって	<p>10年先を見て今後5年間で取り組む内容について</p> <p>第11次倉吉市総合計画との関係に留意</p> <p>教育基本法第17条2項の規定に基づくものとして策定</p> <p>地域に根ざしたものにしてい</p>		<p>〈倉吉教育の基本〉 「人と自然と文化がつくる『キラリと光る新中核都市』」それは何よりも市民が快適に働き、学び、憩うことができ、安心して暮らせる自然環境の下、まちに誇りと愛着を持って住み続けることを実現することであり、第10次倉吉市総合計画の基本理念である「誰もがいきいきと安心・安全に暮らせるまちづくり」「魅力と活力に満ち、交流とにぎわいを生み出すまちづくり」「ともに支え、ともにつくるまちづくり」の実現に向け、教育行政を総合的に推進します。本年度は計画期間の最終年度であり、その結果がより反映されることとなります。 倉吉市教育委員会は、「豊かな個性を育む人づくりの推進」、「魅力ある歴史・文化資源を活用した文化の振興」を基本目標として、あらゆる世代がそれぞれのライフスタイルにあわせて、いつでも・どこでも幅広い学習や、文化・スポーツ活動を楽しむことができる条件整備を推進するとともに、心と体の健康な子どもが育つ環境作りを推進します。その中で、「生涯学習の推進」「義務教育の充実」「文化財の保護と活用」「体育・スポーツの振興」などに重点を置きながら、生涯学習社会の実現に努めます。 また、学校教育におきましては、豊かな心とたくましく生きる力をもつ子どもの育成を目指して、地域とともにつくる開かれた学校教育を推進し特色ある教育活動の展開に努めます。 加えて昨今、青少年の非行等が社会問題になっている現状に鑑み、青少年が社会のルールや規範意識を身に付け、更には社会の役に立つ行動ができるような人づくりに向けて、<b>学校、家庭、地域社会及び関係機関との連携</b>を密にして、<b>広く市民の理解と協力を得ながら積極的に推進</b>します。 〈学校教育の方針と重点施策〉 学校教育においては、児童生徒が共に学び楽しく学校生活をおくることをとおして、夢や希望をもち生涯にわたりその実現に向けて努力する態度や能力の基礎を育むことをねらいとしています。 近年、<b>情報化や国際化、少子高齢化や一人親家庭の増加</b>など、子どもを取り巻く社会情勢の変化につれて、<b>保護者の価値観やライフスタイルも変化し、地域の人と人のつながりも希薄化</b>していることなどの理由により、<b>子どもたちの学力や生活習慣等に様々な課題</b>が生まれています。 そうした背景にあって、これからの学校教育においては、子どもたちが自ら学び、自ら考える力を育むことを基本として、<b>知・徳・体のバランスのとれた教育を展開</b>し、<b>確かな学力と豊かな心と健やかな体</b>（生</p>	<p>後審①明日の倉吉の教育を考える会が出した提言の中の項目が、是非、方針や重点施策として反映されることを望む。</p>
倉吉市教育の現状と課題	<p>【学校教育に関連して】</p> <p>○学力実態について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査や全国標準学力テストの分析等で市の学力調査を積み上げている</li> <li>・基礎・基本に関する学習内容について本市の教育水準は概ね維持されている。</li> <li>・全国学力・学習状況調査の結果では、知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力等に課題がある。</li> <li>・中学校において、英語科で全国平均をやや下回る傾向が見られる。</li> </ul> <p>○学力と生活・学習習慣の関連について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食を毎日食べている生徒の割合は全国より高い。</li> <li>・テストで間違えたところを見直ししている生徒、家で学校の宿題をしている生徒の割合は全国より低い。</li> <li>・学校や地域の図書館によく行っている児童、いま住んでいる地域の行事に参加している児童の割合は全国より高い。</li> <li>・ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある児童の割合は全国より低い。</li> </ul> <p>○少人数学級について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数学級を実施することで、教師の目が行き届き、きめ細やかな指導につながっている。</li> <li>・落ち着いた環境で学ぶことができ、子ども・保護者の安心感がある。</li> </ul> <p>○児童生徒の体力について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の児童生徒の体力平均値は、全国の児童生徒の体力平均値より例年高い傾向にある。</li> <li>・体格においては、児童生徒ともにほぼ似たような体格であると言える。</li> <li>・食育の取り組み、運動をする習慣化により、肥満度傾向・痩身傾向児の正常範囲の児童生徒の割合が多い。</li> <li>・小学校児童の男女とも長座体前屈の数値が低く、体が硬い傾向にある。中学校の持久力が全国の平均値より低い</li> </ul> <p>○生徒指導の実態について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動の発生件数は減少傾向にある</li> <li>・携帯電話等の普及により子ども同士のネットワークが広がり、生徒指導上の問題の広域化の傾向が見られる。</li> </ul>	<p>将来の倉吉市を背負う子どもたちに「生きる力」、「人間力」をつけていくことが重要との観点から、本市においては「確かな学力」「豊かな心とたくましい体」「地域に誇りと愛着をもつ子ども」の育成を重点として各校が特色ある学校づくりに努めている。 学校教育の第一の責務は「確かな学力」を身につけさせることにある。過去3年間の全国学力・学習状況調査の結果をみると、本市児童生徒の<b>学力は全国と比べて高い水準</b>を維持しており、各学校の取り組みが実を結んでいるといえる。同調査の質問紙調査によると、<b>規範意識、他者との関係等の面では良い反応</b>を示している。また、<b>本市児童生徒の体力、運動能力は全国と比較しても決して遜色のない結果</b>となっている。さらに、<b>市内全小中学校がウェブページを開設し、児童生徒の活動状況や学校評価の結果等広く保護者や地域に情報発信</b>をしており、開かれた学校づくりに向けた取り組みが推進されていることがわかる。 このように、本市学校教育のこれまでの営みが一定の成果をあげてきているものと考えてる。 その反面、本委員会では、<b>「就学前教育（幼稚園・保育園）と学校教育との連携</b>がうまく図れ、一人一人が大切にされた接続がなされているのか。」 「価値観が多様化していく中で、<b>家庭教育のあり方をどのように考え、保護者への働きかけ</b>をいかにしていくべきか。」 「5年後には小学校児童数が300名近く減少する中で、学力向上と健やかな成長を図る上で、<b>学校・学級集団の規模が適正</b>であるのか。」 など、本市学校教育が抱える課題が多岐にわたることも提起された。</p>	<p>後審①子どもたちの置かれている状況が、厳しいと感じる場面が非常に多くなっている。<b>社会の経済状況の悪化が、子どもの貧困と格差の拡大を引き起こしている</b>ことに危機感を持つ。 後審①子どもたち一人一人を見てみると、<b>家庭の経済状態により、基本的な生活習慣や様々な体験の量・質、情報の量・質に大きな格差</b>が見られ、ひいては、学力・体力、スポーツ、文化・芸術にまで格差を生み出している。 後審①親の生活リズムも子どもそっちのけのものとなっている。子どもとの遊び方のわからない保護者がいる。 後審①<b>保護者の不安定な経済状態を将来子どもが引き継がない取り組みを考えていく必要がある。</b> 後審①大人は、次代の社会を担っていく人材（社会人であり家庭人）を育成していく上で、家庭のみならず地域社会全体、ひとり一人の存在が、子どもたちにとって環境であるということを自覚して、子どもたちに関わっていく必要がある。 後審①<b>教育の機会均等、格差の是正、進路保障が大きな命題</b>だと考える。 教委⑦学力について、保護者がそこそこできればよいと考えているのではないかと気になる。スポーツ面や芸術面などではそうでない人も出ている。見習いたい。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の環境が原因と考えられる事例が見られる。</li> <li>・長期欠席者の改善例も多くあるが、新たな長期欠席者も少なくない。</li> </ul> <p>○学校公開の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全市で学校一斉公開を実施している。</li> <li>・学校評価の公表は市内の小中学校で100%である。</li> <li>・ホームページの公開状況は市内の小中学校で100%である。</li> </ul> <p>○教育を考える会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育を考える会を開催することにより、中学生の地域行事への参加が増えたり、あいさつ運動など地域ぐるみの取り組みが活発となったという地域がある。</li> <li>・子どもに関わる大人が一堂に会して話し合うことで、今の親の悩み学校の取り組みの様子が地域に理解された。</li> <li>・参加者の固定、地域により取り組みに差があることが課題となっている。</li> </ul> <p>○地域との関わりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合は全国より高い。</li> </ul> <p>○家庭教育の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の家庭環境（保護者の経済的格差等）による児童への影響の懸念（基本的生活習慣の定着、基礎学力の定着）</li> </ul> <p>○学校、家庭、地域の役割の明確化</p> <p>学校の役割：バランスよく知・徳・体の力を身につけさせると同時に集団の中での人間関係の基本を身につけさせる。</p> <p>家庭の役割：子どもが生きていく上で必要な基本的生活習慣や規範意識を身につけさせると同時に、心と体を休める場となる。</p> <p>地域の役割：子どもが活動できる安心・安全な場を提供するとともに、地域全体で家庭での教育を支え、学校と協力して子どもを見守り、育てる。</p> <p>○幼保小連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉部局と一体化した移行支援の取り組みは進んでいる。</li> <li>・幼稚園・保育園、小学校、中学校のさらなる連携の強化充実が期待されている。</li> </ul> <p>○給食、食育の推進状況</p> <p>○教員の業務について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員個人によって差はあるものの時間外勤務が常態化しており、子どもと向き合う時間の確保が望まれている。</li> </ul> <p>○児童・生徒数の推移</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として減少、大多数の学校で減少、増加が見込まれる学校は少数である。今後適正な学級・学校の規模、校区のあり方について検討が必要となってくる。</li> </ul>	<p>これらの課題解決を進めていく中で、私たちは「<b>学校・家庭・地域がそれぞれの役割を明確にするとともに互いの連携を強化すること（横のつながり）</b>」と「<b>就学前から学校、そして社会へとつなぐ系統的なプログラムの作成を図ること（縦のつながり）</b>」とをうまく合致させていくことが重要ではないかと考えた。</p>	<p>きる力) を、さらに育むことを目指して学習指導要領の改訂が行われました。</p> <p>本市においては、第10次総合計画「人と自然と文化がつくる『キラリと光る新中核都市』」を将来都市像に掲げ、学校教育では基本目標「豊かな心と文化を育むまちづくり」の推進にあたり、本市が培ってきた自然・歴史・文化という特性を活かしながら、学校と家庭と地域社会の連携のもと、各校が特色ある充実した教育活動を展開し、学力の向上や豊かな心とたくましい体づくりをめざし、故郷に誇りと愛着をもつことができる子どもの育成に努めてきました。</p> <p>学校教育課としては、これまでの取組をさらに推進するとともに、学習指導要領改訂の趣旨を生かした教育活動も積極的に取り入れるなどし、あらゆる教育活動をとおして本市の子どもたちに「生きる力」を育むことに努めます。さらには、開かれた学校づくりや学校評価をとおして、児童生徒や家庭、地域社会から信頼される教育を目指します。また、倉吉市学校教育審議会を設置し、教育活動がより一層充実するために必要な条件整備や指導・支援に努めます。</p>	
--	---	--	--

<p>倉吉市の教育方針</p>	<p>【教育理念】</p> <p>倉吉の教育方針</p> <p><b>豊かな心を持ち、個性を発揮する人づくり</b></p> <p><b>豊かな心</b>      美しいものに対して美しいと感じる心      人に対しての優しさや思いやり、人とのつながりの中に豊かさを感じる心      物質的な豊かさだけでなく、何げない生活の中にある豊かさを感じとる心      大地に根ざし、culture（耕す）ことによって創造することに豊かさを感じる心      快適に働き、学び、遊び、憩うことができ、安心して暮らせることに喜びを感じる心      まちに誇りと愛着を持って住み続けることに喜びを感じる心</p> <p><b>個性を発揮する人</b>      一人一人の持っているかけがえのないその人のよさ、その人らしさを磨き、発揮できる人      社会の中で自立し、社会に貢献しつつ自己実現を図る人      一人一人のよさ、その人らしさを発揮できる地域・社会づくりが基盤となる文化・スポーツ・芸術や伝統芸能などで力を発揮したり、それらの良さを自分らしさとしたりしている</p>	<p>(1)倉吉の教育を進めていく上で、<b>倉吉らしさを出した目標や基準などの作成</b>を行うこと。      ○目標や方策、計画、手だてを明確にする      ○いまある「<b>倉吉らしさ</b>（自然・環境・文化・人間性など）」を伸ばす      ○これからの「<b>倉吉らしさ</b>」を創造する      ○具体性のある取り組みについて検討する</p> <p>・自分たち（倉吉）でどうやっていくのかを決めることが大切。      ・本市の現状から「こうしたい」というミッション、方向性を決めること。そして、そのために具体的にできることを考えていきたい。      ・倉吉のどこに良さや可能性があるのかを見定めて、それを活かし、どうしていくのかを話し合いたい。      ・総括的なものでなく<b>倉吉独自のもの</b>が出来たらと思う。      ・大人になって、一度外に出ていた人が地域に帰ってくるような「<b>倉吉方式</b>」にこだわりたい。      ・子どもの様子や実態を見て、倉吉の教育についてできるだけ具体的な方策を盛り込んだ提言にしていきたい。      ・現在の教育問題への対症療法も必要だが、問題の再生産にならないよう、遡らなくてはいけない。<b>ピフオアケア、予防教育のようなもの</b>が必要。      ・<b>倉吉市のスタンダード</b>、目標となるものを作るのがいい。      ・子どもの「<b>人権</b>」に関する文言が理念の中にあっただ方が良いのではないか。      ・理念は大きな枠組みのようなもので個々の内容を集約したものになる。それぞれの柱の中で具体的な内容は盛り込んでいくのが良い。      ・何をもち「倉吉らしさ」とするのか。共通の認識が必要ではないか。      ・<b>環境が良いこと</b>が「倉吉らしさ」の一つと思う。ただ、人のつながりがやや弱くなっていることが子どもに影響している。「<b>お互いが支え合う</b>」という部分が必要になってきているのでは。      ・<b>「純朴、素直、人の気持ちが理解できる</b>」といったことは長所かも。しかし「<b>もまれ方が少ない</b>」などは短所とも言える。長所はさらに伸ばし、その裏にあたる短所をしっかりと直していく。短所を見ることが良い教育に向けてのチャンスになっているという側面もある。</p>	<p>豊かな心を持ち、個性を発揮する人づくり</p>	<p>後審①<b>ものに感謝する心</b>を養う      後審①みんなで協力してものごとを作り上げる力を養う（そこには、リーダーがあり、副リーダーがあり、それを支えるみんながいる）      後審①世の中が何でも便利になりすぎて子どもたちに「やる気」をなくしているように思う。自分が子どもの頃は学校は楽しいところで「部活命」のような気持ちだったが、子どもたちは今、そういう子が少ないように思う。「やる気」を育てる環境をつくってやりたい。</p>
<p>倉吉市の教育目標</p>	<p>・<b>幅広い知識、豊かな心、健やかな体を養う。</b>      知・徳・体の調和のとれた人を育成      人格の完成      よく生きる      人権      人の気持ちが理解できる</p> <p>・<b>個性を尊重し、創造性、自主・自律性を培う。</b>      個性をよりよく発揮      タフな心      社会で自立する力      自己実現      社会のルール</p> <p>・<b>社会の一員として、参画し寄与する態度を養う。</b>      タフな心      社会で生きていける      社会のルール</p> <p>・<b>自然を大切にし、伝統と文化を尊重する態度を養う。</b>      環境がよい、純朴、素直</p> <p>・<b>郷土を愛し、他人や他地域を尊重する態度を養う。</b>      倉吉らしさ      倉吉にあっても、他の地域にあっても倉吉を愛する      お互いが支え合う      人権が尊重される</p>	<p>（1）倉吉の教育を進めていく上で、<b>倉吉らしさを出した目標や基準などの作成</b>を行うこと。      ○目標や方策、計画、手だてを明確にする      ○いまある「<b>倉吉らしさ</b>（自然・環境・文化・人間性など）」を伸ばす      ○これからの「<b>倉吉らしさ</b>」を創造する      ○具体性のある取り組みについて検討する</p> <p>・自分たち（倉吉）でどうやっていくのかを決めることが大切。      ・本市の現状から「こうしたい」というミッション、方向性を決めること。そして、そのために具体的にできることを考えていきたい。      ・倉吉のどこに良さや可能性があるのかを見定めて、それを活かし、どうしていくのかを話し合いたい。      ・総括的なものでなく<b>倉吉独自のもの</b>が出来たらと思う。      ・大人になって、一度外に出ていた人が地域に帰ってくるような「<b>倉吉方式</b>」にこだわりたい。      ・子どもの様子や実態を見て、倉吉の教育についてできるだけ具体的な方策を盛り込んだ提言にしていきたい。      ・現在の教育問題への対症療法も必要だが、問題の再生産にならないよう、遡らなくてはいけない。<b>ピフオアケア、予防教育のようなもの</b>が必要。      ・<b>倉吉市のスタンダード</b>、目標となるものを作るのがいい。      ・子どもの「<b>人権</b>」に関する文言が理念の中にあっただ方が良いのではないか。      ・理念は大きな枠組みのようなもので個々の内容を集約したものになる。それぞれの柱の中で具体的な内容は盛り込んでいくのが良い。      ・何をもち「倉吉らしさ」とするのか。共通の認識が必要ではないか。      ・<b>環境が良いこと</b>が「倉吉らしさ」の一つと思う。ただ、人のつながりがやや弱くなっていることが子どもに影響している。「<b>お互いが支え合う</b>」という部分が必要になってきているのでは。      ・<b>「純朴、素直、人の気持ちが理解できる</b>」といったことは長所かも。しかし「<b>もまれ方が少ない</b>」などは短所とも言える。長所はさらに伸ばし、その裏にあたる短所をしっかりと直していく。短所を見ることが良い教育に向けてのチャンスになっているという側面もある。</p>	<p>・<b>幅広い知識、豊かな心、健やかな体を養う。</b>      ・<b>個性を尊重し、創造性、自主・自律性を培う。</b>      ・<b>社会の一員として、参画し寄与する態度を養う。</b>      ・<b>自然を大切にし、伝統と文化を尊重する態度を養う。</b>      ・<b>郷土を愛し、他人や他地域を尊重する態度を養う。</b></p>	<p>審①不登校について、本当に休まないといけいない人は休まないといけいないと思うが簡単に休んでいいという雰囲気はどうか。面倒くさいとかたいぎいとかで、簡単に心が折れるようでは、結局社会に出た時にその人が困ることになる。<b>タフな心を持った子</b>に育てて欲しい。      審①教育目標についてだが、中学校で終わりではなくもっと先がある。企業や芸術等様々な場面で生きていかなければならない。<b>どういった人材が必要なのか、もっと上から目標設定が必要</b>ではないか。ヒアリングをやっていただくとよいのではないか。      後審①「<b>社会で自立する力</b>」を育てること大切。さらに「<b>よく生きる</b>」こと、教育基本法にあるように「<b>人格の完成</b>」を目指すこと、<b>個性</b>をより良く発揮し、<b>自己実現</b>を図ることが必要。      後審①他人を認め合うと共に、今の社会を認め合っ      て思いやりの心を養う。      後審①<b>社会のルール</b>をしっかり認識し守ること      後審①目標はたくさんあるより、一つずつ達成ができてから、次の目標にうつる方がよいのではないか?!一度に目標達成するのは、とても難しい。</p>

<p>重点施策</p>	<p>【学校教育】 豊かな心とたくましく生きる力をもつ子どもの育成 学校教育 自ら学び、たくましく生きる</p> <p>優しさや思いやり、そして人とのつながりの中に豊かさを感じる心を持ち、前向きに努力していくとともに困難なことでも耐える力と、新たなことにチャレンジしていく力をもつ子どもを育成していきます。</p> <p>○倉吉のめざす子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな学力を身につけた子ども</li> <li>・学び方を身につけた子ども</li> <li>・思いやりのある子ども</li> <li>・たくましい体をつくる子ども</li> <li>・倉吉のよさを感じ、地域で活動できる子ども</li> </ul> <p>○倉吉のめざす教師像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒に対する教育的愛情を持つ教師</li> <li>・教師としての専門性・指導力の向上を求め続ける教師</li> <li>・教師文化を引き継ぎ、創造する教師</li> <li>・社会人としての教養、人権意識を身につけた教師</li> <li>・倉吉のよさを知り、保護者・地域とのつながりを大切にする教師</li> </ul>	<p>(5)学校教育のめざす「子ども像」や「教師像」を明確にし、それに向けた具体的な計画の作成を行うこと。</p> <p>○知・徳・体の調和のとれた子どもを育てる</p> <p>○教師力の向上を図る (例 教職員研究団体の活動支援)</p> <p>① 子どもについて 『倉吉のめざす子ども像』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども像というが、どんな大人になってほしいか、どんな大人を育てるのかという認識がないといけない。</li> <li>・市民憲章との兼ね合いはどうなっているか。市全体がめざしている市民像との整合性はどうか。</li> <li>・子どもの数が減っている中で、自尊感情が育たない。思い合い、高め合う関係づくりがないと伸びていかない。しなやかに打たれ強い、自分が好きといえるような子どもになってほしい。周りの大人が自尊感情をどう高めていくのか。</li> <li>・共感力や共有できる仲間づくりなど日々の言葉かけの中で気をつけていかないといけない。</li> <li>・子どもたちの体験が不足している。</li> <li>・いまの子どもは、危険を感じない。自分の身を自分で守ることが欠けているのではないか。</li> <li>・勉強への興味が低くなっていると言われるが、勉強だけではなく、自分の好きなことや興味のあることとそれ以外のこととの差が大きい。好きなことは一所懸命だが、嫌いなこと、苦しいことから安易に逃げる傾向がある。</li> <li>・倉吉の特徴として、ぬるま湯につかっているような感覚があるような気がする。「とびきり出来なくても、そこそこ出来ればいいや。」と思っている子が多いのではないか。</li> <li>・「子ども像」や「教師像」において、個に焦点をあてるのも大切だが、集団を育てるという観点から例えば「子ども同士像」とか「教師集団像」といったかわりの面からめざす像づくりを考えていくことも重要ではないか。</li> </ul> <p>② 教師について 『望ましい教師像』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生に威厳がなくなっている。いまは学校に教壇がなくなっているそうだが、小さいときに先生は偉いんだということを植え付けることが大切ではないか。そこがあって、子ども像や教師像がある。</li> <li>・先生自身が倉吉のよさを知り、子どもたちに伝えられることが必要。</li> <li>・先生が自ら思いやりをもつこと。愛情をもつ先生をできるだけ多くしてほしい。</li> <li>・教師文化の継承と創造を。</li> <li>・研究会や研修会が盛んになっているということは、文化の継承という意味ではすごく大事なことだが、や</li> </ul>	<p>基本方針 ～豊かな心とたくましく生きる力をもつ子どもの育成～</p>	<p>審①幼児教育から中学校ぐらいまでに、<b>どんな社会人に、大人になりたいのか、親が語ったり、学校が子どもたちに提示したり</b>していくことも必要ではないか。情報化社会になっているが、子どもは自分に必要な情報しか取っていない。<b>将来展望</b>が持てるようにしていかないといけない。</p> <p>審①次の子どもたちをどう育てるのかということが大切となっている。中・高校生はすぐに親になる。<b>どんな人間に育てるのか</b>を明確にしないといけないし、働くことを大切にして欲しいと思う。</p> <p>審①学校の教員の授業づくりに専念できる体制づくりが大切である。</p> <p>後審①<b>教員の生活体験や経験の差</b>を感じるが多くなった。また、地域の伝統や文化に対するの識見や、地域の人たちとの交流の場面でコミュニケーション力が不足しているのではと思うことも多々ある。以前に比べて、子どもたちや保護者への対応においても、<b>温かで時には毅然とした態度で接する技量が必要</b>だと感じる。</p> <p>教委⑦短大の英語専攻の学生に声をかけて、授業参観などしてもらうことは可能。教員は授業を見てもらわないと力はない。学生にも参加してもらうのがよい。栄養士、司書等でも短大と連携している。</p>
-------------	--	---	---	--

<p><b>重点施策Ⅷ 機能的な学校運営体制と特色ある学校づくりの推進</b>      学校長のリーダーシップのもと機能的な学校運営体制を確立し、教師の指導力の向上と多忙化を解消するとともに子どもと向き合う時間を確保します。</p> <p>〈主要施策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校長のリーダーシップによる特色ある学校づくりの推進       <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職研修会、校長会の活用</li> <li>・学校評議員の活用</li> <li>・学校評価の充実</li> </ul> </li> <li>○教師の指導力の向上と多忙化解消による子どもと向き合う時間の確保       <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校組織マネジメントの活用</li> <li>・地域と学校をコーディネートする仕組み作り</li> </ul>       (倉吉版学校支援地域本部(仮称)「市民による地域学校」の設立に向けての検討)(再掲)       <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の充実(若手、中堅、管理職、職務)</li> </ul> </li> </ul>	<p>はり人間と人間の触れ合いが必要なのではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前は、先輩の先生のもっている「いい技術」と若い先生の「新しい知識」とが交流によってうまく交換されていた。いまは、年配の先生と若い先生の間での会話がな。若い先生は職員室でパソコンに向かってる。</li> <li>・最近の教員で、伝統を軽んずる教員がいるという話を聞いた。その学校が守ってきたものを安易にきって行くようではいけないのではないか。</li> </ul> <p>○教師の多忙感を解消し、子どもと向き合う時間を確保する</p> <p>○学校長がリーダーシップを發揮し、特色ある経営が行える学校づくりを推進する</p> <p><b>③ 教師の多忙さの中で子どもと向き合う時間の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生と子どもたちが向き合う時間を確保するために、周りの大人たち(保護者を含めて)が何ができるのかというところにも目を向けていかないとけない。学校の先生だけに成果や負担を求めても、ゆとりがないと感じる。</li> <li>・先生は、学校で限られた時間を有効に使いながら、授業や生徒指導の力量を高めながら<b>部活動の指導もしている現状</b>にある。</li> </ul> <p>参考：明日の倉吉の教育を考える委員会  <b>〈倉吉のめざす子ども像〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎確かな学力を身につけた子ども</li> <li>◎学び方を身につけた子ども</li> <li>◎思いやりのある子ども</li> <li>◎たくましい体をつくる子ども</li> <li>◎倉吉のよさを感じ、地域で活動できる子ども</li> </ul> <p><b>〈倉吉のめざす教師像〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎児童生徒に対する教育的愛情をもつ教師</li> <li>◎教師としての専門性・指導力の向上を求め続ける教師</li> <li>◎教師文化を引き継ぎ、創造する教師集団</li> <li>◎社会人としての教養・人権意識を身につけた教師</li> <li>◎倉吉のよさを知り、保護者・地域とのつながりを大切にする教師</li> </ul>		
---	--	--	--

<p><b>重点施策Ⅰ 学力向上の推進</b></p> <p>基礎的な知識及び技能を習得させ、それらを活用して課題解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育むとともに主体的に学習に取り組む態度を養います。</p> <p>また、そのための教職員の資質、指導力の向上、細やかな指導を行う体制づくり、また特別支援教育の充実による一人一人の特性に応じたきめ細やかな指導の充実に努めます。</p> <p>(主要施策)</p> <p>○学力向上推進支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力実態の把握と分析、課題解決に向けた取り組みに対する支援（県診断テスト、標準学力テストの実施）</li> <li>・ステップ9（市作成国算ドリル）の活用</li> <li>・市教育委員会学校計画訪問の実施と指導助言</li> <li>・市初等教育研究会、中学校教育振興会などにおける学力向上対策の推進</li> <li>・ICTの活用推進</li> <li>・授業評価の導入</li> </ul> <p>○わかる授業のための授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の指導力向上（県教育センター研修等）</li> <li>・校内授業研究会における指導助言</li> <li>・年間指導計画の見直し等</li> </ul> <p>○細やかな指導を行う体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数学級教員加配</li> <li>・複式学級解消教員加配</li> <li>・指導方法の工夫改善による学習指導の充実</li> <li>・小学校教科担任制</li> <li>・多人数による学習の長所を活かした集合学習</li> </ul> <p>○特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内特別支援教育指導体制の確立と指導の充実</li> <li>・リーダー研修会の開催</li> <li>・生涯にわたる一貫した支援：個別の支援計画、個別の指導計画作成</li> <li>・「まなびの教室」「ことばの教室」「日本語指導教室」等</li> <li>・市就学指導委員会の開催と適正就学の推進</li> </ul>	<p>(6)学力向上に向けて、<b>学習意欲の喚起</b>や<b>学習指導方法の改善</b>を行うとともに、学習状況を的確に把握し、<b>学習習慣の定着</b>を図ること。</p> <p>○<b>基礎学力の定着</b>を図る（例 国語・算数ドリル教材の活用）</p> <p>○<b>特別支援の必要な子への理解</b>を深める対策を検討する</p> <p><b>④ 学力の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>学力の低下と二極化</b>。低学年からの積み上げが大事。</li> <li>・学力の問題では、どこをターゲットにするのかが問題になる。出来る子を伸ばすのか、出来ない子を引き上げるのか。いまの感じだと、中くらいの子をさらに引き上げるというところかと感じた。</li> <li>・学力の問題は小学校と中学校とで捉えがちがうのか？</li> <li>・習熟度別の授業はうまく機能しているのか？</li> <li>・全層をそれぞれ引き上げるのが理想。習熟度別のクラス分けはしていないが、習熟度に応じたグループ分けをした授業も行っている。</li> <li>・学力は、読書量、教師の質、家庭の環境などいろいろなものが関係している。いま問題にしているのは狭義の学力だが、教育の在り方として、学校教育の中で、欠けているもの、足りないものがどこかにありはしないか。</li> <li>・子どもの様子を見てみると、「この勉強をしてどう役に立つのか？」とよく言う。学習とその必要性とが結びついていない。買い物も与えられる。自分で困りながら用意をすることがない。学習も受け身になっている。<b>学習意欲の喚起</b>が必要。</li> <li>・<b>小学校低学年の積み残し</b>が高校まで影響している。高校で小学校の復習をしなければならないような状態。</li> <li>・家庭教育で、<b>基本的な生活習慣</b>が身につけていない。小さい頃から生活習慣が身につけていないと、学力も伸びない。</li> </ul> <p><b>⑦ 特別支援教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人一人の実態に気を配り、育ちに気を配りながら気になるところがあれば<b>早期の段階で保護者への働きかけ</b>を行っていくことが大切では。</li> <li>・集団の中でうまく適応できない子への対応。かかわる大人（教員）の数も大事かもしれないが、かかわり方といった質の部分を重要だと思う。その点の研修も考えていく必要がある。</li> <li>・自分に合った<b>進路の選択</b>と<b>社会に出てから生きていく力</b>をいかに育てる。</li> <li>・特別に支援の必要な子どもに対する周りの理解がなかなか得られていない。<b>保護者への系統的な研修等</b></li> </ul>	<p><b>Ⅰ 学ぶ意欲と基礎学力の向上をめざす子どもの育成</b></p> <p><b>1 弾力的できめ細やかな指導を行うための体制づくり</b></p> <p>小学校1、2年生に<b>30人学級</b>を、中学校1年生に<b>33人以下学級</b>を実施するとともに、複式学級に解消教員等の配置を行うなどして、弾力的できめ細やかな指導を可能とする体制づくりに努めます。また、<b>少人数指導</b>や<b>チームティーチング</b>等指導方法の工夫改善に努め、一人一人の<b>興味・関心や習熟の程度</b>に応じた指導により、<b>学ぶ意欲を高め確かな学力の定着</b>をめざします。</p> <p>&lt;具体的な取組&gt;</p> <p>① 小学校1、2年生の<b>30人学級教員加配</b> 2名（河北、社小、各1年生）</p> <p>② 中学校1年生の<b>33人以下学級教員加配</b> 2名（東中、河北中）</p> <p>③ <b>複式学級解消教員加配</b> 4名（灘手小2名、北谷小1名、山守小1名）</p> <p>④ <b>指導方法の工夫改善による学習指導の充実</b>（指導方法の工夫改善を目的とした教員加配校：小学校10校、中学校5校）</p> <p>⑤ <b>学校事務の共同実施</b></p> <p>⑥ 小学校6年生<b>教科担任研究加配</b>（モデル校上灘小、河北小）</p> <p>⑦ <b>倉吉市幼児教育研究会による保幼小連携の推進</b></p> <p><b>2 小中学校における学力調査とその結果に基づく学力向上推進支援</b></p> <p>小学校県国語・算数診断テスト、全国標準学力検査などの実施により、児童生徒の学力実態を的確に把握し授業改善に努めます。</p> <p>&lt;具体的な取組&gt;</p> <p>① 各校の<b>学力実態の把握と分析、課題解決に向けた取組に対する支援</b></p> <p>② <b>市教育委員会学校計画訪問</b>の実施と指導助言</p> <p>③ 市初等教育研究会、中学校教育振興会などにおける学力向上対策の推進</p> <p>④ <b>ステップ9</b>（市作成国算ドリル）の効果的な活用</p> <p><b>3 わかる授業のための授業改善、教職員の資質・指導力の向上</b></p> <p>わかる授業を実践するために、教職員の資質、指導力の向上を目指して、各校において計画的に授業研究会を実施するとともに、関係機関と連携して研修を推進します。</p> <p>&lt;具体的な取組&gt;</p> <p>① <b>年間指導計画の見直しと改善に関する指導助言（新学習指導要領への移行）</b></p> <p>② <b>校内授業研究会の指導助言</b></p> <p>③ <b>教職員の指導力向上</b>（授業改善・指導方法等の研修：アドバイザー派遣事業等活用）</p>	<p>後審①学力Aは水準以上だが、Bは以下であることから、<b>Bの向上に力点</b>を置くべきである。知識は体験を通して身につくものであるため、<b>実体験</b>をできるだけ多くさせることが必要。<b>倉吉らしさを出す観点からも、もっと地域に出掛けて、地域の自然の中で色々な体験</b>をすることが重要、そのことが引いては学力Bの向上に役立つ。</p> <p>後審①学力Bは、言葉の力が大きいと思うので、<b>読む書く聞く話すなどの国語力をのばす手立て</b>が必要。<b>10分間読書</b>などはとてもよい試み。<b>市立図書館の充実</b>、その活性化、各学校の図書室の充実なども必要。</p> <p>後審①・子どもに机の上での学力がついていたとしても、<b>生活体験の中から身につけた知識を活用する力や人とつながる力</b>がなくては、本当の学力がついているとは言えない。受験のための学力をつけるために、家庭で三食を摂らない子どもたちや人と交わることが苦手な子どもたちがいる。これもある意味で子どもの貧困ではないか。</p> <p>・小3ぐらいでのつまづきが、中学生ぐらいで出てくる。そうした生徒は、勉強がおもしろくなく、将来への見切りを早くつけてしまう。</p> <p>・<b>学力低位の子どもたちへの手立てが必要</b>。全国、県の平均を上回っていても、低位の子どもたちの実態を把握して、学力を向上させていくことが大切。</p> <p>後審①倉吉市では、<b>就学前からの子育て支援、特別支援教育</b>に努めているが、就学前とのより一層の連携が図られ、<b>特別支援学級の子どもたちが自己肯定感</b>を持って、自尊感情を高めていけるような環境づくりが必要。</p> <p>教委⑦<b>普通学校の特別支援の必要な子どもに対してはきちんとした指導計画</b>が必要ではないか。本人の人生に沿った計画を考えて欲しい。場合によっては、そこらでも保護者の活用などができないだろうか。教委⑦将来的には障がいがあっても中学校に通うインクルーシブシステムとなるのか注目して見ていく必要がある。ただ施設、人の配置等の問題があり、現状では不可能ではないかと思われる。</p>
--	---	--	---

	<p>の手だてが必要である。          ・個々の子どもの指導上、<b>学校間の接続</b>が必要である。</p>	<p>④ <b>各種学力検査・調査の分析を活かした授業改善</b>          ⑤ <b>児童生徒による授業評価、教職員間による授業評価の推進</b>          ⑥ <b>小中学校におけるコンピュータ等、ICTの有効活用の推進</b>          ⑦ <b>管理職研修会、スキルアップ研修会 8/19、初任者研修会等の実施</b>          ⑧ <b>中部教育局との連携による教職員の指導力の向上対策の推進</b>          ⑨ <b>講師研修会の充実</b> (校内研修、中部教育局との共催)          ⑩ <b>小学校外国語活動の実施</b> (鳥取短期大学との連携)</p> <p><b>4 目標に準拠した評価の信頼性や客観性を高めるための研究</b>          児童生徒一人一人が基礎基本を確実に身につけ、確かな学力の向上を図るため、目標に準拠した評価の信頼性や客観性を高めるよう努めます。          &lt;具体的な取組&gt;          ① <b>評価を活かした学力向上推進</b>          ② <b>評価に関する保護者等への説明</b></p> <p><b>5 特別支援教育の充実</b>          児童生徒一人一人の教育的ニーズや障がいの種類や状況に応じた創意ある教育課程の編成と指導方法の工夫改善を行い、<b>個々の発達と自立に向けた教育活動の充実</b>に努めます。          &lt;具体的な取組&gt;          ① <b>特別支援教育主任を中心とした校内特別支援教育指導体制の確立と指導の充実</b>          ② <b>市就学指導委員会の開催と適正就学の推進、障がい種別に応じた学級の開設</b>          ③ <b>生涯にわたる一貫した支援の充実</b>          ・保育所、幼稚園、学校、福祉、医療等との連携の推進          ・<b>教職員の資質向上</b>を図る研修会の実施          ・<b>倉吉市個別支援計画の策定と個別の指導計画</b>の作成及び活用          ④ <b>特別支援学級支援非常勤講師の配置</b> (3以上の学年にわたる学級への加配)          ⑤ <b>「まなびの教室」</b> (発達障がい通級指導教室：明倫小) 開設と加配教員による指導          ⑥ <b>「ことばの教室」</b> (言語通級指導教室：上灘小) 開設と加配教員による指導          ⑦ <b>日本語指導教室</b> (上灘小) の開設と加配教員による指導          ⑧ <b>「つくし学級」</b> (病院内学級：厚生病院) の開設          ⑨ <b>「サンサン教室」</b> (聴覚障がい児支援：上灘小) の設置          ⑩ <b>県教育センター教育相談会</b> (県教育センター事業)          ⑪ <b>元気はつらつプランによる教育支援員の配置</b> (小中学校全校配置)</p>	
--	--	---	--



<p><b>重点施策Ⅱ 豊かな心・たくましい体の育成</b></p> <p>読書活動や体験活動を積極的に推進するとともに、道徳教育や人権同和教育の充実を図り、豊かな心を育成します。また、運動や健康・安全についての理解を深め健康の保持増進のための実践力と体力の向上を図ります。</p> <p>〈主要施策〉</p> <p>○道徳教育・特別活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校一斉公開時での公開</li> <li>・「心のノート」の活用推進（活用事例集作成）</li> <li>・大人から子どもたちに向けて伝えたい言葉、しぐさの活用</li> <li>・おひさまふれあい会（小中学生と赤ちゃんとのふれあい会）の推進</li> </ul> <p>○読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の一斉読書の実施（全小・中学校）</li> <li>・学校図書館経営の充実（図書館経営と図書活用に関する計画訪問）</li> <li>・学校図書館司書の全校配置及び司書教諭と学校図書館司書との連携推進</li> <li>・学校図書館相互、学校図書館と市立図書館との連携</li> <li>・伝えたい本をもとにした「読みたい本（推薦書）」のリスト作成活用</li> </ul> <p>○人権同和教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権同和教育の題材・教材に関する研究</li> <li>・人権同和教育を推進する体制づくり</li> <li>・中学校区同和教育研究会の推進</li> <li>・学校、家庭、地域の共同運営による地区学習会の推進</li> </ul> <p>○学校体育、健康・安全教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育及び体育的行事等の充実</li> <li>・学校内外での外遊び、業間体育等の推進</li> <li>・中部学校保健会の活動の推進</li> <li>・性教育及び喫煙防止教育・薬物乱用防止教育の充実</li> <li>・学校安全危機管理マニュアル及び安全マップ等による安全教育の推進</li> <li>・スクールガード等学校支援ボランティアの協力等地域ぐるみの学校安全組織の活動推進、登下校時の児童生徒の安全確保の推進</li> </ul> <p>○情報教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンや携帯電話の正しい活用の理解促進</li> <li>・情報モラル教育の推進</li> </ul> <p>○体験活動・文化芸術活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な生活体験の重視と自然体験、社会体験、宿泊体験等の推進</li> <li>・職場体験活動の推進</li> <li>・文化・芸術に触れる機会の確保</li> <li>・博物館、図書館、民俗資料館の活用</li> </ul> <p>○相談体制の充実、問題行動の未然防止及び進路指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取県中部子ども支援センターの充実</li> <li>・不登校対応教員加配の活用</li> <li>・スクールカウンセラーの配置の継続</li> <li>・心の教室相談員、子どもと親の相談員の配置の継続</li> <li>・生徒指導対策推進会議の開催</li> </ul>	<p>(8)人権感覚を養うとともに、豊かな心とたくましい体をつくるための具体的な計画の作成を行うこと。</p> <p>○社会を生きる力を身につけさせる（例 コミュニケーション力、情報コントロール力、国語力）</p> <p>⑥ 人権同和教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権感覚をしっかりと養うことが必要。</li> <li>・自他をともに大切にすることをいかに育てるのか。</li> <li>・倉吉市が取り組んできた同和教育の成果や手法を生かし、部落問題をはじめとするさまざまな人権問題を主体的に解決する力の育成が必要である。</li> <li>・全教育活動の中で取り組まれる必要がある。</li> <li>・子どもの発達段階に応じた系統的な指導がなされるべきである。</li> <li>・人権意識の希薄さがある。</li> </ul> <p>⑧ 豊かな心</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モラルや規範意識の欠如が原因と思われる問題が起こっている。幼児期から道徳性を育むことが、調和のとれた心豊かな子ども、大人を育てることにつながるのでは。</li> <li>・「つながり」や「関係」がキーワードになっていると感じた。</li> <li>・<b>ソーシャルスキルトレーニングなど人間関係を学ぶ学習</b>も必要である。</li> <li>・学力実態だけでなく、集団における人間関係を何らかの指標で把握していくことも大切である。そういった意味では、<b>Q-U</b>のような調査を各学校で実施してみるのも良い。</li> <li>・世の中を生きる力をつける。</li> </ul> <p>⑨ <b>たくましい体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動をしっかりとすると子どもとそうでない子どもの二極化傾向にある。</li> <li>・子どもたちが望ましい<b>基本的な生活習慣</b>を身につけ、<b>生活リズムの向上を図る取り組み</b>が必要ではないか。</li> <li>・「野球部で顔にボールが当たる子」「ころんで手がつかない子」等、以前ではあまり見られなかったような理由で怪我をする子どもが増えている。</li> <li>・食習慣の乱れが多く見受けられるようになっていく。様々な経験を通じて「<b>食に関する知識と「食」を選択する力</b>を身につけることが求められる。</li> </ul>	<p><b>Ⅱ 豊かな心とたくましい体をつくる子どもの育成</b></p> <p><b>1 道徳教育・特別活動の時間等の充実</b></p> <p>教育活動全体をとおして豊かな心の育成に努めます。</p> <p>豊かな心の育成にあたっては、「道徳」や「特別活動」の時間を充実させ、心を開いて自分の考えを述べ、自分を見つめ、行動できる子どもの育成に努めます。</p> <p>また、学校・家庭・地域社会と連携を推進し学習の深化を図ります。</p> <p>春の学校一斉公開では全学級において「道徳」または「学級活動」の時間を公開します。</p> <p>〈具体的な取組〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校一斉公開時における「道徳」または「学級活動」の時間の公開（春に全学級）</li> <li>② 「道徳」及び「特別活動」の指導計画の作成及び指導の充実</li> <li>③ 「心のノート」の活用推進（活用事例集作成）</li> <li>④ 伝えたい言葉、しぐさの効果的な活用</li> <li>⑤ おひさまふれあい会（小中学生と赤ちゃんのふれあい会）の推進</li> <li>⑥ 福祉教育の推進</li> </ol> <p><b>2 読書活動の推進と学校図書館の充実</b></p> <p>「倉吉市子どもの読書活動推進計画」を基本に、教育活動全体を通して「読書センター」及び「学習情報センター」としての役割の充実と活用の推進に努めます。</p> <p>また、司書教諭と学校図書館司書(全校配置)との連携による読書活動の推進に努めます。</p> <p>〈具体的な取組〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 朝の一斉読書の実施（全小・中学校）</li> <li>② 学校図書館経営の充実(図書館経営と図書活用に関する計画訪問の実施)</li> <li>③ 学校図書館司書の全校配置及び司書教諭と学校図書館司書の連携推進</li> <li>④ 学校図書館相互や、学校図書館と市立図書館との連携(学校間の相互貸借、市立図書館の団体貸し出し等)</li> <li>⑤ 義務教育9年間に「読みたい本（推薦書）」のリスト作成</li> </ol> <p><b>3 人権同和教育の充実と推進</b></p> <p>本市が策定した「第3次倉吉市あらゆる差別をなくする総合計画」を基本とし、本県・本市同和教育の中で積み上げられてきた成果や手法を生かし、保護者や地域の人々の理解と協力のもとに、様々な人権問題を主体的に解決する力の育成を目指し、全教育活動を通して人権同和教育を推進します。</p> <p>〈具体的な取組〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 人権同和教育の教材、題材に関する研究</li> <li>② 人権同和教育加配教員の配置</li> <li>③ 人権教育主任者会の開催</li> </ol>	<p>審①不登校の問題にしても、中3で無理に親の期待に答えようしたり、家庭的な問題が伝わったりということがあるのではないかと。専門的な方を配置してカウンセリングをするなど学校を支える取り組みがあってもよい。</p> <p>後審①道徳教育と人権教育をきちんと分けて教育する</p>
---	--	---	---



			<p>④ 5中学校区同和教育研究会の推進(研究指定:河北中学校区)</p> <p>⑤ 学校、家庭、地域の共同運営による地区学習会の推進</p> <p>⑥ 作文教材「差別をなくすために」の作成</p> <p><b>4 不登校児童生徒の解消と問題行動の未然防止及び進路指導の充実</b></p> <p>いじめや不登校の解消、問題行動の未然防止に取り組む、児童生徒が明るく楽しい学校生活をおくることができるように努めます。また、将来の生き方に関心を持ち、夢や希望に向かって主体的に進路の選択や意志決定ができるような進路指導を進めます。</p> <p>&lt;具体的な取組&gt;</p> <p>① 鳥取県中部子ども支援センターの充実(中部地区市町共同設置)</p> <p>② 不登校対策研修会の開催</p> <p>③ 小中連携による不登校対策の推進</p> <p>④ 不登校対応教員加配の活用(中学校2校)</p> <p>⑤ スクールカウンセラーの配置(全中学校)</p> <p>⑥ 心の教室相談員の配置(全中学校)</p> <p>⑦ 子どもと親の相談員の配置(小学校3校 県配置事業)</p> <p>⑧ 生徒指導対策推進会議の開催(各中学校区)</p> <p>⑨ 各関係機関・各団体との連携推進</p> <p>⑩ キャリア教育の推進</p> <p>⑪ 起業家教育推進事業の実施(商工観光課との連携)</p> <p><b>5 学校体育、健康教育及び学校保健の充実</b></p> <p>運動を通して体力の向上を図るだけでなく、薬物等に関することへの理解を深めることによって、健やかな心身の育成に努めます。</p> <p>また、生涯にわたって自己の健康を維持管理できる態度や能力の育成に努めます。</p> <p>&lt;具体的な取組&gt;</p> <p>① 体育及び体育的行事等の充実</p> <p>② 学校内外での外遊びの推進(豊かな自然の活用)</p> <p>③ 学校訪問等における運動能力の実態把握</p> <p>④ 性教育及び喫煙防止・薬物乱用防止教育の充実</p> <p>⑤ パソコンや携帯電話の正しい活用の理解促進(モデルカリキュラムの作成活用)</p> <p>⑥ 中部学校保健会の活動の推進</p> <p>⑦ 就学時健康診断の実施と就学指導</p> <p>⑧ 学校環境衛生検査とその改善</p> <p>⑨ 日本スポーツ振興センターへの加入・災害報告・給付等</p> <p>⑩ 全国市長会学校管理者賠償責任保険への加入(全児童生徒)</p> <p>⑪ 専門医の検診による児童生徒の健康管理とその指導</p> <p>⑫ 児童生徒の健康管理のための諸検査の実施</p>	
--	--	--	---	--

			<p><b>6 安全教育の徹底</b></p> <p>児童生徒が安全に安心して学校生活をおくることができる環境整備や、不審者対応等の徹底に努めるとともに、児童生徒自らも自己を守る能力や態度の育成に努めます。</p> <p>&lt;具体的な取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校安全危機管理マニュアル及び安全マップ等による安全教育の推進</li> <li>② 関係機関と連携した計画的な防災訓練、不審者対応訓練の実施</li> <li>③ 登下校時等の児童生徒の安全確保の推進</li> <li>④ 地域ぐるみの学校安全組織の活動推進</li> <li>⑤ スクールガード等学校支援ボランティアの協力による安全確保</li> </ul> <p><b>7 食の教育の推進と充実</b></p> <p>倉吉市「食育推進計画」を参考として、食の教育の理解や実践を深め、健やかな心身の育成に努めます。</p> <p>&lt;具体的な取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 倉吉市「食育推進計画」を参考とした食の教育の推進</li> <li>② 栄養教諭及び学校栄養職員、学校給食センター並びに関係機関、団体と連携した食の教育の推進（「親子で学ぶ食の教室」等）</li> <li>③ 市食育推進研究指定（研究指定校：関金小）</li> </ul>	
--	--	--	--	--

<p><b>重点施策Ⅲ 倉吉に誇りと愛着を持つ子どもの育成</b></p> <p>子どもたちが倉吉の自然や歴史、文化などに誇りと愛着が持てるよう、倉吉のよさを子どもたちに伝えるため、地域の特色を生かし、人材や歴史、自然等の倉吉の財産を子どもたちが「知る・楽しむ・育む」ことのできる取り組みを推進します。</p> <p>〈主要施策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○倉吉独自の教材づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土資料「私たちの倉吉」の改訂・活用</li> <li>・中学生版「倉吉学入門（仮称）」の作成</li> <li>・「菜の花プロジェクト」など学校と地域が連携した取り組みの推進</li> </ul> </li> <li>○地域の人・もの・ことがらに触れる教育活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科、総合的な学習の時間の年間指導計画などへの位置づけ</li> <li>・地域の素材や環境を活用した体験的な学習の推進</li> <li>・地域コーディネーターを核とした学校応援団組織づくりと活用</li> <li>・博物館や歴史民族資料館等市の文化・芸術施設等の積極的活用</li> <li>・伝統的建造物群を活用した体験活動の推進</li> </ul> </li> <li>○倉吉らしさを取り入れた教育活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・倉吉市小中学生リーダー会議（淀屋サミット）の開催</li> <li>・学校支援ボランティア等地域人材の積極的活用</li> <li>・公民館等関係機関との連携推進</li> <li>・商工会議所との連携（親子 歴史まち並み産業見学教室等の開催）</li> </ul> </li> </ul>	<p>(7)地域の自然・文化・伝統を継承し、地域とつながりながら誇りと愛着を持たせる倉吉独自の教育課程として位置づけを行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○倉吉のまちに誇りをもつ子どもを育てるための手だてを考える</li> <li>○倉吉独自の教材づくりを行う (例 郷土資料「私たちの倉吉」の改訂)</li> <li>○倉吉にある<b>企業や鳥取短期大学等との連携を強化</b>する</li> </ul> <p><b>⑤ 教育課程</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の中に<b>地域の文化、地域の自然</b>をどのように入れるかがポイント。</li> <li>・低年齢から地域の教材を取り入れていく必要がある。<b>小学校区内にあるものを教材として提供し、誇りと愛着をもてるようにしてほしい。</b>副読本「<b>私たちの倉吉</b>」の改訂も考えてみればどうか。</li> <li>・美育も必要。美しいものを美しいと感じる心を育てたい。技育も必要。</li> <li>・<b>倉吉教育独自のものを教育課程内で取り組む</b>ことも。</li> <li>・倉吉は自然や伝統に育まれたまちと言える。しかし、近くにある自然をうまく活用した学習がなされているのか？伝統的建造物群が市街地にあるのに子どもたちは行っているのか？博物館や図書館などを利用した学習ができているのか？<b>現にある特色あるものを積極的に用いた教育活動</b>のあり方を検討していただきたい。</li> </ul>	<p><b>Ⅲ まちに誇りと愛着をもつ子どもの育成</b></p> <p><b>1 「総合的な学習の時間」の充実</b></p> <p>「総合的な学習の時間」で身につけたい力を明らかにして、地域の素材や環境を積極的に活用し、体験的、問題解決的な学習を計画的に実施します。</p> <p>〈具体的な取組〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「総合的な学習の時間」の年間指導計画等の見直し（新学習指導要領への移行）</li> <li>② 地域の素材や環境を活用した体験的な学習の推進</li> </ol> <p><b>2 豊かな自然や文化(文化財)・芸術、郷土芸能に触れる教育活動の推進</b></p> <p>豊かな自然や文化・芸術、郷土芸能などに触れる機会を積極的に教育活動に取り入れ、故郷を愛し故郷を護り、故郷の発展のために活躍しようとする子どもを育てます。</p> <p>〈具体的な取組〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 博物館や歴史民俗資料館等市の文化・芸術施設等の積極的活用</li> <li>② 伝統的建造物群（白壁土蔵群周辺）を活用した体験活動の推進</li> <li>③ 芸術鑑賞事業への参加（本物の舞台芸術体験事業等）</li> <li>④ 副読本「私たちの倉吉」改訂準備</li> </ol> <p><b>3 地域の人々との触れ合いを通じた教育活動の推進</b></p> <p>様々な知識や技能を有する地域の人々と児童生徒の関わりの機会を増やし、触れ合いを通じた教育活動の推進に努めます。</p> <p>〈具体的な取組〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 倉吉市小中学生淀屋サミット（リーダー会議）の開催</li> <li>② 地域コーディネーターの配置（小学校6校）</li> <li>③ 学校支援ボランティア等地域人材の積極的活用</li> <li>④ 公民館等関係機関との連携推進</li> </ol>	<p>審①中学校2年生で職業体験をするが、地理的なこともあり、希望するところに行けない状況である</p> <p>審①やりたい仕事についている人ばかりではない。生きていくために10年、20年働き、立派な企業人になっている人もある。行きたいところに行けなくても、自分の世界とは違った新たな発見があるのではないかと。</p> <p>教委⑦「<b>私たちの倉吉</b>」の改訂だけでなく、<b>中学生版</b>を作ったらどうかと考える。それは一般の人でも市民大学講座や倉吉検定等で使えるものとなるのではないかと思う。ふるさと納税者に対しても、お礼として送付できる</p> <p>教委⑦。<b>倉吉市教育センター</b>というような構想もあってもよいのではないかと。歴史的なものをまとめるたり、人材バンクをもっと広くやるようなことも可能。</p> <p>教委⑦新学習指導要領のキーワードは、「体験」と「言葉」。すべての教科で言語活動を大事にした授業づくりを行い、表現力、コミュニケーション力を高めることが求められている。</p>
---	---	---	---

<p><b>重点施策Ⅳ 地域と連携した開かれた学校づくりの推進</b></p> <p>保護者や地域に積極的に情報を公開するとともに、学校評価をさらに推進し、各学校が創意工夫のもと地域の実態に応じた特色ある教育活動を展開し、活力ある学校づくりができるよう地域の人が学校運営に参画する体制づくりを推進します。</p> <p>〈主要施策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○開かれた学校づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価の実施と活用</li> <li>・学校一斉公開の継続実施</li> <li>・学校評議員制度の効果的活用</li> <li>・学校ウェブページの効果的活用</li> </ul> </li> <li>○学校・家庭・地域が一体となった取り組みの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子育て十か条」の活用</li> <li>・スクールガード等学校支援ボランティアの協力等地域ぐるみの学校安全組織の活動推進、登下校時の児童生徒の安全確保の推進（再掲）</li> <li>・家庭教育協力推進企業制度の活用</li> <li>・（地域行事等での子どもの出番づくり）</li> </ul> </li> <li>○地域の人が学校運営に参画する体制づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と学校をコーディネートする仕組み作り（倉吉版学校支援地域本部（仮称）「市民による地域学校」の設立に向けての検討）</li> <li>・各地区での教育を考える会の開催</li> </ul> </li> </ul>	<p>（9）開かれた学校づくりに向け、<b>学校情報公開の推進</b>を図ること。</p> <p>○<b>ウェブページ等</b>を活用した<b>学校からの情報発信</b>を進める</p>	<p><b>Ⅳ 地域と共につくる開かれた学校教育の推進</b></p> <p><b>1 創意と工夫を生かした活力ある学校づくり</b></p> <p>各学校が創意工夫のもと地域の実態に応じた特色ある教育活動を展開し、活力ある学校づくりに努めます。</p> <p>〈具体的な取組〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「明日の倉吉の教育を考える委員会」の提言を受けた取組の推進</li> <li>② 家庭や地域社会と連携した児童生徒や地域に関する実態把握の推進</li> <li>③ 全教職員が参画した創意と特色ある教育課程の編成</li> <li>④ 「創意と特色ある学校づくり推進事業」の有効活用</li> </ol> <p><b>2 開かれた学校づくりと学校評価を生かした地域から信頼される教育活動の推進</b></p> <p>保護者や地域に積極的に情報を公開するとともに、各校が教育活動のより一層の充実・改善を目的とした学校評価を実施し、信頼される教育活動を推進します。</p> <p>〈具体的な取組〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校評価の実施と活用（教職員評価育成制度との連動）</li> <li>② 学校一斉公開の実施</li> <li>③ 学校評議員制度の効果的運用</li> <li>④ 学校、家庭、地域が一体となった取り組み（「教育を考える会」の開催）</li> <li>⑤ 学校ウェブページの効果的活用（情報発信）</li> </ol>	<p>後審①・<b>教員の多忙感を解消</b>するために、地域の人々が学校の活動の中に参加したり、日常的に学校へもっと入り込んで、子どもたちに指導伝達ができるような環境づくりが必要。開かれた学校づくりが推進されることを望む。まだまだ、学校は閉鎖的であると感じている。</p>
--	---	--	---

		<p>(10)地域が果たすべき役割を明確にし、それに基づいた家庭や学校との連携を図り、一体となった取り組みに関する検討を行うこと。</p> <p>○役割を明確にした上での連携のあり方を検討する</p> <p>○大人が子育ての共通な目標をもつ (例 「倉吉子育て十ヶ条」の作成)</p> <p>○子どもを「鍛える」「我慢させる」場面づくりを行う</p> <p>○地域行事等での子どもの出番づくりを図る</p> <p>○社会教育施設の充実と活用を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の教育力とは何なのか。共通理解ができてきているのか。</li> <li>・「一人一人の子どもは地域の一員である」という共通理解が必要。学校に全てお任せは良くない。地域が責任を負うべきこともある。</li> <li>・学校の地域に対する意識づくりを。いままでは「地域に頼む」という意識が強かったのでは。「地域と一体となって」という意識への移行が必要である。</li> <li>・地域と学校が一体となってやっている。運動会で小鴨音頭を復活させて踊った例もある。高齢者との触れ合いも大切。</li> <li>・地域の人とのつながりが大切。地域の役員を受けてもらうのがよい。</li> <li>・教師が行事に参加できるような体制にしてほしい。</li> <li>・各自治公民館の行事に子どもを参加させている。地域の行事への参加、大人と子どもの交流。全住民を一箇所に集めて、その中に小中学生も一緒にする。一緒に作業をしながら、子どもの顔を覚える。</li> <li>・「倉吉の子育て十ヶ条」のような大人が共通して取り組む方向性の検討も。</li> <li>・大人の意識の根底に、自分で子どもと関わっていかうというものを育てていけていなかったように感じる。危機感をもっている。</li> <li>・家庭、地域が学校の足を引っ張るのではなく、協力できる環境ができればいい。</li> <li>・住んでいる地域を知ることが大切。行事に保護者も巻き込む。</li> <li>・「菜の花プロジェクト」のように学校と地域が連携した取り組みのようなものは、今後も継続していくべきではないか。</li> <li>・家庭、地域が学校に協力したくなるようにする必要がある。学校を舞台としながら地域の人が出入りする。子どもも地域を知る。そういうシステムができないかと思う。そういうコミュニティができたかと思う。</li> <li>・子どもから大人まで社会教育施設(公民館、博物館、</li> </ul>	<p>審①子育て十ヶ条は、5万の倉吉市民がすべてできるよになるとよい。親からやるようにしないといけない。</p> <p>後審①生涯学習の観点から、マイホビー、マイスポーツを持つ重要性が言われているが、それを発展させ、マイホームスポーツ、マイコミュニティスポーツもあってよい。</p> <p>後審①家庭・地域の落ち込み、社会も弱くなっている。地縁がなくなっている。</p> <p>後審①地域で子育てと言われるが、何をしたいのか、保護者は何をしているのかという声がある。</p> <p>後審①生涯学習では個の要求だけを聞いているような現状はないか。→地域づくりの中心</p> <p>後審①お金をかけないで人の輪づくり、それを活用</p> <p>後審①学校が地域のコミュニティ的な機能を果たす(多機能、世代間交流)→学校支援地域本部等の活用、家庭学習支援</p> <p>後審①衣食住に関わる基本的な生活習慣や社会のマナー・ルールを子どものうちから身につけていくために、学校、家庭も含めた地域社会全体で意識をしながら、子どもと関わっていかなくてはならない。生きる力、人間力は、地域や学校以外の社会と交わり関わることによって、身につけより育まれていく。</p>
--	--	---	---

		<p>図書館等)をしっかりと活用するシステムづくりが大切だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>地区ごとの教育を考える会の実施</b>により、学校は地域のものだという意識が深まったのでは。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域に貢献して満足した経験を重ねることが大切。「～してもら」感覚に慣れてはいけない。</li> </ul> </li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>		<p>(11) <b>地域の学校サポート体制づくり</b>を図ること。</p> <p>○「<b>地域</b>」＝「<b>学校の応援団</b>」となり得る組織づくりを検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 声掛け、防犯などで、地域の力が大切。地域の人があいさつや声かけをし、守ってくれる。地域がキーとなると感じている。</li> <li>・ 地域は学校の応援団になるべき。公民館が地域の責任を助け、学校と協力していく。学校は地域との門を閉ざしてはいけない。</li> <li>・ 公民館は地域の拠り所（子どもから大人まで）。</li> </ul>	<p><b>IV 地域と共につくる開かれた学校教育の推進（再掲）</b></p> <p><b>1 創意と工夫を生かした活力ある学校づくり（再掲）</b></p> <p>各学校が創意工夫のもと地域の実態に応じた特色ある教育活動を展開し、活力ある学校づくりに努めます。</p> <p>&lt;具体的な取組&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「明日の倉吉の教育を考える委員会」の提言を受けた取組の推進</li> <li>② 家庭や地域社会と連携した児童生徒や地域に関する実態把握の推進</li> <li>③ 全教職員が参画した創意と特色ある教育課程の編成</li> <li>④ 「創意と特色ある学校づくり推進事業」の有効活用</li> </ol>	<p>教委⑦現在は教育を考える会を行っているが、<b>学校応援団組織</b>をどう機能させていくのか議論が必要。</p> <p><b>10年先を考えると、学校は地域が責任を持って面倒見ると意識が必要</b>ではないか。学校運営について<b>保護者、地域が参画していくという思いやシステムが必要</b>である。</p> <p>教委⑦学校が出した学校運営に関する原案について理事会で協議し、決定した内容について学校が実施していくという方向となっていくのではないかと。教委⑦先生は多忙であり、できることは保護者がやって先生には授業に専念して欲しい。<b>ここまでは先生、ここからは保護者が自由にとりかかろうか。</b></p> <p>教委⑦教委があり各学校がある今の形だが、10年後は教委もどうなっているかわからない。</p> <p>教委⑦学校理事会もいろいろある。文科省も学校支援地域本部事業をやっており、やらずに済まされるものではなく、研究しておかないといけない。教育を考える会があるのでそれをうまく使うと良いのではないかと。</p>



<p><b>重点施策Ⅴ 家庭教育の充実</b></p> <p>家庭教育の重要性を保護者が自覚し、家庭での基本的な生活習慣や学習習慣の確立等について取り組めるようにしていくとともに、相談体制の整備など保護者が子育てしやすい体制づくりを推進していきます。</p> <p>〈主要施策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子育て支援体制づくりの充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「倉吉子育て帳」の作成・活用</li> <li>・「倉吉子育て十か条」の普及</li> <li>・(放課後児童クラブ等の充実)</li> </ul> </li> <li>○保護者の子育て相談体制の整備・充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園・保育園、小学校、中学校との相談体制の継続</li> <li>・中部総合教育相談センターの設置・活用</li> </ul> </li> <li>○子育て支援に向けた企業との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育協力推進企業制度の活用(再掲)</li> </ul> </li> </ul>	<p>(2)家庭教育の重要性を<b>保護者が自覚するための具体的計画</b>を立てること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭環境の変化にともなう<b>子育て支援の体制づくり</b>を図る</li> <li>○おとな像(保護者像)のモデルづくりを図る</li> <li>○就学前から高等学校までの<b>長期的視野にたった、系統性ある保護者会活動や研修の計画</b>を立案する</li> <li>○<b>子育て支援に向け産業界(企業など)への協力を要請</b>する</li> <li>○子育ての参考となる「<b>倉吉市子育て手帳(仮称)</b>」の作成を行う</li> <li>○<b>保護者は子どもに何を継承していくべきと考えているのか調査活動</b>を行い、その<b>結果を活用</b>する</li> <li>・小中学生の<b>父親</b>をPTA各部の役員に組み入れることを提言している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、家庭の部分が大切。<b>学ぶ力の基礎は生活習慣</b>。人間としての基礎ができていないと学ぶ力にならない。</li> <li>・<b>一人親の家庭</b>が4割にも及んでいる現在、<b>時間的にも経済的にも厳しい家庭が多い</b>。</li> <li>・保護者自身の体験が足りない。</li> <li>・一人親家庭の割合が増えている。一人親が悪いわけではないが、問題も多く抱えている。PTAとしても対応しきれない。自分の子どもだけしか見ていない(他の子のことが考えられない)親が多いように感じる。</li> <li>・<b>家庭(親)の経済力が学力にも間接的に影響</b>している。</li> <li>・保護者が子どもに接する時間を確保していくなど、親の働いている職場の環境も大切。そういった面から各企業に協力を依頼していくことも必要ではないか。</li> <li>・県も「<b>家庭教育推進協力企業制度</b>」を設け、参観日の折に休暇をとりやすい仕組みをとっていただくなど、多くの企業に協力いただいている。このような制度を有効的に活かしていくことも市として考えてほしい。</li> <li>・企業との連携もそうだが、<b>福祉との連携</b>も密にしていくことが重要。企業(職場)、福祉、教育がしっかりと手を結んだ形でのサポート体制の構築を考えてほしい。</li> <li>・<b>親であるという当事者意識</b>を持つことが大切。</li> </ul> </li> </ul>		<p>審①<b>保護者会の活動</b>も後退しているのではないか。学校と家庭を両輪として子どもを見ていく体制を作っていくことが必要。</p> <p>審①中学校では不登校も長欠も増えている。家庭の温度差もあるが、子どもにとってプラスになるので、PTAの活動を活発にするなど家庭を巻き込んでやっていくことが課題である。</p> <p>審①保護者がつながれば子どもにもよい影響が出ると考えPTA活動に取り組んでいる。</p> <p>審①地域と学校、保護者と地域という関係も薄くなっている。あいさつ運動等に地域で取り組むこともよい。学校だけでの問題解決は難しい。</p> <p>審①学校の先生方は一生懸命やっている。大人がちゃんとやれば、子どももできるようになる。あいさつ運動でも、学校ではできるが親がしないとできなくなる。</p> <p>審①答申を出すときにも、<b>家庭教育を最初に出すべき</b>。大学でも学生に問題を感じる時は、やはり親に課題がある。親の気持ちが安定しているといい方向にいけるが、親と一緒に揺れていると子どもはさらに大きく揺れる。家庭教育がまず大事である</p> <p>後審①学校教育振興基本計画であると同時に家庭教育基本計画であり、社会教育振興基本計画でなければならぬ。学校教育の名の下に子どもの養育は学校現場に重きを置かれているが、<b>家庭教育・社会教育も同等の責任</b>を持たなければならない。つまり、同等の<b>施策が必要</b>。</p> <p>教委⑥小学校入学前からいろいろと話ができるグループを作ったらどうか。小学校入学後にも学校教育に参画できる企画が必要。最低限「<b>10か条</b>」の<b>ような当たり前のことができるようになって欲しい</b>。</p> <p>教委⑥<b>親父の会などOBが参加</b>するというのはどうか。また応援団として団体で活動するだけでなく、都合のよい日やできる内容を登録しておいて、個人的にできる時にできることをするというやり方もある。</p> <p>教委⑥親はこういう役割を果たすというようなことが教えられていないのではないか。<b>親の自覚というものを学ぶ場</b>などないのでは。</p> <p>教委⑥昔の親は善悪を教えていた。今の親は損得を教えている。善悪を教えて欲しい。</p> <p>教委⑥「<b>10か条</b>」は<b>一步踏み出したこと</b>になる。家庭での姿を再確認するものができたということ。</p> <p>教委⑥<b>親のニーズ</b>をもっと知るべきではないかと思うが、昨年「<b>伝えたいしぐさ</b>」などを調べたことを大事にしていきたい。そうやって調べたものをいつの機会にどういう手段でと考え、手立てしていかないといけない。</p> <p>教委⑥「<b>10か条</b>」の<b>チェックリスト</b>を作るのはどうか。</p>
--	---	--	--

		<p>(3)保護者の子育て相談体制の整備を行うこと。  ○子育て相談を実施するセンター機能を有した施設を設置することを検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てに関わるお母さんのケアが必要だと思う。</li> <li>・親の支援については、福祉と連携するような取り組みをはじめている。</li> <li>・お母さんが相談できるような場があればいいと思う。</li> <li>・そもそも親としての教育を受けていない。親として、子に対して何をしてやるべきかがわかっていない。親が子育てに悩んだときにどこで誰に相談すればいいかわからない。相談場所が豊富でない。</li> <li>・何か困りごとがあるとき、どこに相談すればよいかかわからないとの保護者の話をよく聞くことがある。</li> </ul> <p>諸々の相談を総合的に受け付けるような窓口をせめて中学校区に一つは設置していくことを検討してもらいたい。</p>		<p>審①母親の不安定さが子どもに大きな影響を与えるケースがあり、母親の支援体制が重要となっている。(母と子が一緒にカウンセリングを受けたり、教職員が母の気持ちを聞く姿勢を伝えたりして成果を上げた例あり)</p> <p>審①母子支援施設にはDV等のマイナスの体験をしている子どもがあり、<b>専門的な関わりが必要</b>となっている。母親との関わり強化がキーポイントとなっている。</p> <p>教委⑥家庭は今密室になっている。親自身の居場所づくりをして、みんなで集まって何かをすることを考えないと、個々にまかせておいても結果は得られない。</p> <p>教委⑥どういう子に育てたいのか保護者に聞いても答えがないことがある。どんな子に育てたいのか話し合ったり、アドバイスをしたりできるような会が必要ではないか。</p> <p>教委⑥困り感があっても<b>相談に行かない大多数の人</b>をどうするかということが問題。</p> <p>教委⑥<b>どういう場面で親学を学ぶのかという体制づくりが必要。相談体制づくりやどこが担当するのかなど整理が必要。</b></p> <p>教委⑥中学卒業後20才ぐらいまでが<b>隙間の年代</b>になってしまうので、そういう年代に訪問相談などを行えるとよい。</p>
--	--	--	--	---

<p><b>重点施策Ⅵ 幼児教育の充実</b></p> <p>保育園・幼稚園と小学校の連携を充実させ、基本的な生活習慣の定着や規範意識の育成及び他者との関わり等について幼児期の教育の充実を図ります。また、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、教職員の交流により、教育・保育内容の相互理解及び指導の在り方についての研究を行います。</p> <p>〈主要施策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚園・保育園、小学校の連携推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「倉吉市幼児教育研究会」の設立、連携の強化</li> </ul> </li> <li>○幼児の子育て支援体制の継続・充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統的な子育て相談体制の確立（乳幼児・5歳児検診、就学時健診等）</li> <li>・中部総合教育相談センターの設置・活用</li> <li>・「倉吉子育て帳」の作成・活用（再掲）</li> </ul> </li> </ul>	<p>(4)体験活動を重視した保育を計画するとともに、<b>保育園・幼稚園・小学校の連携推進</b>を図ること。</p> <p>○<b>健やかな成長のための経験・体験活動</b>を組み入れていく</p> <p>○保護者への<b>子育て支援のあり方を検討</b>する</p> <p>○「<b>倉吉市幼児教育研究会</b>」を設置し、<b>学校教育へのスムーズな接続</b>のあり方を検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもは、乳幼児期から大人の生活のリズムに巻き込まれている。家庭を支えないと、子どもが崩れてしまう。</li> <li>・五感を通した様々な体験をさせていく。</li> <li>・<b>乳幼児・5歳児検診</b>における子育てのための相談や研修を充実させる。</li> <li>・保育園の広域化が進んでいる。「地域の子を育てる」という面がやや疎かになってはいないか。</li> <li>・就学前の教育と小学校教育との接続を考える必要がある。</li> <li>・保育園や幼稚園と小学校とのスムーズな接続を図るための「保幼小研究会（仮称）」の設置を検討してみるのも良い。</li> <li>・保幼と小学校との連携が大切はもちろんである。中学校との連携はどうか。</li> <li>・中学校で例えば何かの問題行動がある。さかのぼっていくと幼児期の教育のあり方に起因しているのではないかという事例も結構ある。</li> <li>・幼児期の教育は大切。小学校の時には出てこなくても、中学生の思春期くらいになると一気に問題行動として出てくる場合がある。</li> <li>・保育のやり方が変わることで、育っていく子どもの姿が変わることがあるのではないかと感じる。</li> </ul>		<p>審①幼児教育の場面では、母親との関係が出来ておらず子どもの情緒が不安定で、それが発達遅滞となっていると思われるケースがある。</p> <p>審①小さな子がいて会に参加できないので、他の方との交流ができない。また子どもも他の子となじめないという状況がある。</p> <p>審①子育て不安は幼稚園の時から始まっており、園でもできるだけ保護者と向き合いながら取り組んでいる。</p> <p>審①幼児教育は重要であり、<b>倉吉市幼児教育研究会</b>を立ち上げ保幼小連携をしようとしている。</p> <p>審①保育指針が平成21年度改訂され、小学校との連携ということが入っている。また倉吉市の小学校の校長会の来園があるなど、保小連携を行っている。</p> <p>審①幼児教育が振興基本計画にきちっと見えるようにして欲しい。</p> <p>審①平成22年2月に立ち上げた倉吉市幼児教育研究会は公立・私立の保育園・幼稚園の園長、小学校の校長も会員。一緒に取り組んでいきたい。</p> <p>審①<b>子ども家庭課とも連携</b>していく。</p>
---	--	--	---

<p><b>(4) 学校・学級の適正規模、校区のあり方についての検討</b></p> <p>児童生徒数の減少を踏まえ、子どもたちが望ましい成長をするための学校・学級の適正な規模、また校区の弾力的な運用、学校選択制のあり方について検討するとともに、検討した結果について広く市民の意見を聞き、今後の方向性を出していきます。</p> <p><b>○学校・学級の適正規模、校区の再編を含めた校区のあり方について原案を出すものとしてします。</b></p>	<p>(12)子どもたちが望ましい成長をするための<b>学校・学級の適正な規模</b>についての検討を行うこと。</p> <p>○<b>切磋琢磨するのに適した集団</b>（学習、遊び、スポーツ）が20人から30人程度であることの検証を行う</p> <p>○<b>地域に根ざす学校づくり</b>に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもがどんどん減って行事ができない学校もある。ある小学校では3人の学年もあった。お年寄りや地域の学校を残してほしいという願いをもっておられるが、若い保護者の中には多人数の学校で学ばせたいという意見もあると聞いた。少人数でよいところもよくないところもある。本市においても、そういう方向も考えてほしい。</li> <li>・集団で切磋琢磨する力も落ちてきている。少人数では他人との関わりが薄い。子どもの数が減っている状況で、学校で今まで取り組んでいた事が難しく、効果を発揮できなくなってきている。</li> <li>・<b>一学級に20～30人程度、欲をいえば各学年複数学級ある学校の姿</b>が、子どもの育ちの面から考えると良いのかなとも思うが。</li> <li>・学校の適正規模を検討した上で、その効果が本当にあるのかどうかの検証を。</li> <li>・<b>小規模校の利点、課題は何なのかを検証</b>した上で次のことを考えていくべき。</li> <li>・<b>集団規模で教育効果がどのように変わるのかの検証</b>をしてほしい。そこがスタート。これは教育行政がやっていくべきことだ。</li> <li>・小学校では25人くらいが良い。学年1クラスでは不十分。2クラスはほしい。</li> </ul>		<p>後審①学校間においても、<b>規模の大小によって、基本的な生活習慣や様々な体験の量・質、情報の量・質等の格差</b>を埋めることはできず、むしろ、埋める手立てが充分に取れない状況があるのではないかと。</p> <p>後審①都市部と地方、市街地と農村部という地域の実態の差も、子どもたちの生活リズムや体験・経験に大きな影響と較差を産んでいる。しかし、生きていく上で向上心や一つの自信があれば、生涯の学びの中で自らを磨いていく。</p> <p>後審①子どもたちが望ましい成長をするための学校・学級の適正な規模についての議論検討を地域へメリット・デメリットを示しながら、<b>教育保障・進路保障・格差是正</b>の観点から課題の克服に向けて、早急に取り組まれることを望む。</p> <p>後審①1クラスは40人だが、義務教育の間はなんとか40人を割っても2学級編制ができるように検討して欲しい。</p>
---	---	--	---

		<p>(13)校区のあり方について検討を行うこと。  ○校区の弾力的な運用、学校選択制のあり方について検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスだけでなく、地域のスポーツ、スポ少などでも人数が集まらない問題もある。他の校区に混ざるなども、家庭の支援が必要。</li> <li>・部活動の関係で行かなければならない中学校以外の学校に進みたいという要望が増えてきているとの話も聞く。地域を大事にする子どもを育てる観点から見ると校区という考えは必要に違いないが、<b>弾力的な運用</b>も考えざるを得ない状況もあるのでは。</li> <li>・この問題を考えていく上で、倉吉全体の状況がわかるような資料を提示してもらった上で協議ができれば良いと思う。</li> <li>・倉吉は中部地区の中核をなす。他町との連携を考えてみる必要もあるのでは。</li> <li>・何かを現在と変えていこうとするのなら、学校やPTA、地域等への相談は早めにしていくことが大切だと思う。</li> </ul>		<p>後審①少子化の状況でどうやって地域づくりをしていくか←<b>校区にこだわっては無理</b></p> <p>後審①人口減によりスポーツ、芸術分野でもやりたいことができなくなる。</p> <p>後審①学級・学校規模等に関わり現状での問題点、課題を提示し地域へ説明していく必要がある。地域の人でつくるという意識を持つ必要が有る。「教育を考える会」も活用できる。人数が少なくて困っていること等北谷地区等に聞くなどもよいのではないかと。</p>
--	--	---	--	--

<p><b>重点施策Ⅸ 教育助成の充実</b>  学校や地域がより一層輝きを放つために、教育研究を実施すると共に、研究団体等や就学援助事業等に関する援助を行います。</p> <p>〈主要施策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教育研究団体等への援助 <ul style="list-style-type: none"> <li>・倉吉市初等教育研究会、倉吉市中学校教育振興会への援助</li> <li>・小・中学校体育連盟等事業</li> <li>・連合音楽会、金管バンドフェスティバル、中学校文化連盟等事業</li> </ul> </li> <li>○就学援助事業等の周知と適切な執行 <ul style="list-style-type: none"> <li>・就学援助事業</li> <li>・遠距離通学費補助</li> <li>・特別支援教育就学奨励費</li> <li>・へき地教育援助費</li> </ul> </li> </ul>		<p><b>V その他教育研究の実施、研究団体等や就学援助事業等に関する援助</b>  学校や地域がより一層輝きを放つために、教育研究を実施すると共に、研究団体等や就学援助事業等に関する援助を行います。</p> <p><b>1 研究団体等への援助</b>  &lt;具体的な取組&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 倉吉市初等教育研究会（教育課程研究・学校教育推進事業・学力向上推進事業）</li> <li>② 倉吉市中学校教育振興会（教育課程研究・学校教育推進事業・学力向上推進事業）</li> <li>③ 小・中学校体育連盟等事業（各種体育大会）</li> <li>④ 連合音楽会、金管バンドフェスティバル、中学校文化連盟等事業</li> </ol> <p><b>2 就学援助事業等に関すること</b>  &lt;具体的な取組&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 就学援助費：学用品費、通学用品費、修学旅行費、校外活動費、医療費、給食費等</li> <li>② 遠距離通学費補助（小学校片道4 km以上、中学校片道6 km以上）</li> <li>③ 特別支援教育就学奨励費：学用品費、通学用品費、修学旅行費、校外活動費、給食費等</li> <li>④ へき地教育援助費（分校、寄宿舎）</li> </ol>	
<p><b>(3)</b>  <b>倉吉市教育振興基本計画の推進に向けた体制づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○倉吉市教育委員会の活性化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関する事務の点検・評価の推進、委員の活動強化</li> </ul> </li> <li>○学校教育施設・社会教育施設の整備運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>・河北中学校移転、耐震化の推進</li> </ul> </li> </ul>			